

# 勤儉尚武

## 勤儉尚武 Vol.31

2011年12月

東日本大震災から8ヶ月が過ぎましたが、一向に進展しない復興に苛立ちを感じる被災者の皆さんのお気持ちを察すると、これまでと変わらない日常を送ることの幸せを感じます。しかし、「無常」の世に生きる私たちですから、大地震や津波あるいは台風など予期せぬ自然災害は私たちの日常に突如襲い掛かる可能性があることを決して忘れてはなりません。「油断大敵」「備えあれば憂い無し」、常に3.11の大震災を心に留めておく必要があると思います。

私事ですが、「無常」を実感する事がありました。日頃から健康には人一倍気をつけ、健康には自信があったのですが、去る8月4日に緊急入院し、網膜剥離の手術を受けました。幸い手術は成功しましたが、10日間の入院後久しぶりに「娑婆（しゃば）」に出た時、筋肉の衰えに愕然としました。足が痩せ細り、地下鉄の階段を登りきった時には息が切れて休憩する有様でした。その後稽古も8月一杯は指導員の方々に代稽古をお願いして見ただけでした。

現在は指導に復帰しましたが、激しい受身はあと1ヶ月ほどドクターストップがかかっております。いつも当たり前できていた事が突如できなくなる「無常」を身近に感じ、人生について考える時間を与えられました。そして、一瞬一瞬を大切に生きて行きたいと改めて心に誓いました。

(注釈)

- (1) 無常：仏教語。この世の中の一切のものは常に生滅流転(しょうめつてん)して、永遠不変のものはないということ。
- (2) 娑婆：1 仏教語。釈迦が衆生(しゅじょう)

を救い教化する、この世界。煩惱(ぼんのう)や苦しみの多いこの世。現世。娑婆世界。

2 刑務所・兵営などにいる人たちが、外の自由な世界をさしている語。

【人生指針】

第十二回順心会合氣道発表会のプログラムで書きました“古歌”についてもう少し触れたいと思います。

“心こそ、心迷わす 心かな  
心に心 心せよ“

(歌の意味)

「煩惱の強い心のために、生まれながらに自分に備わっている真我の心を苦しめるものよ。その真我の心に、自分の中にあるニセモノの煩惱の心に迷わされるな」と訴えている歌です。

「利き酒の通」に言わせると、日本酒の味は「① 香り」、「② 色つや」、「③ まろやかさ」、「④ 味わい深さ」、「⑤ あとに残らない」などが渾然一体となっているのが、上質の酒だそうです。これを人間に当てはめると、

- ①何かを言うわけでもないのに存在感があり、香りに該当します。
- ②心身とも健康で、それが顔つきや色つやにあらわれている。
- ③個性はありますが、カドがなく、人格がまろやかである。
- ④付き合いば付き合うほど、豊かな心を持ち、おっとりした人柄に惹かれる。
- ⑤別れたあと、なんとも言えないほのぼのとした気持ちにさせられる。

このように言い表される人なら、心に何のわだかまりもなく、日々を楽しく送っており、心に迷わされることもないでしょう。

合氣道の稽古を通して、上質の酒のようにまろやかな人格を熟成したいものです。

【敵を知り、己を知れば、百戦危うからず】

これは、孫子の『兵法』の中に出てくる言葉です。今の日本では、戦争に参加するようなことはほとんどありませんが、これをビジネスや日常生活に置き換えると、

「相手の情報だけでなく、味方の情報もきちんと入手しておく、そうして初めて、危険のない行動に移れる」ということです。

先日、スリランカ出身のある大学教授のお話を聴く機会がありました。テーマは国際ボランティアのお話だったのですが、お金を寄付して学校や病院を建設する事だけが国際ボランティアではない、相手の国が何を求めているかを知らなければ役に立たないというお話でした。そのためには、一度海外に出て、現地の状況を肌で感じる必要があると思います。同時に、海外から日本を見て、自分の生活がいかに恵まれているかを知るべきです。

私が始めてオーストラリアを訪れた11年前に、当時戦争難民としてアフガニスタン出身の17歳の少年2人に会いました。彼らは17歳にして始めて学校という場所で、安心して勉強できる環境に接し、その幸せを噛み締めていました。それまでは少年兵として、戦場を走り回っていたそうです。このような生徒が大部分のクラスで、合気道について体験を交えながら講義をしましたが、彼らの輝く目に驚いたことを今も鮮明に覚えています。

それに比べて日本の学生はどうでしょうか。こんなに平和で恵まれた環境の中で学習できる事のありがたさがわかっていないのです。前述の大学教授曰く、「留学生は一番前の席に座るために早く教室に来るが、日本人の学生は一番後ろの席に座るために早く教室に来る。」全ての日本人学生がそうだとは言いませんが、当たらずとも遠からずだと思えます。

話を合気道に戻したいと思います。10月

の連休中に、山梨県甲府市で大島先生の合宿が行なわれました。今回は手術後2ヶ月しかたっていなかったため、私は参加できませんでした。お詫びの気持ちを伝えるため、アメリカの大島先生にお電話をすると、「将来の順心会のために、若者たちだけで合宿に参加させなさい」とおっしゃいました。今までは私を含む大人が運転する車に同乗して参加していましたが、自分たちだけで電車に乗って重い荷物を持って参加し、知らない人ばかりの中に参加する訳ですから、様々な事を経験できる事は確かです。

結局高校生2人と大学生1人の計3人が参加しました。合宿后感想を聞くと、大島先生の期待通り、3人の学生は大変意義のある経験をしたことを話してくれました。外に出て初めて自分たちが置かれている環境が恵まれている事に気がついたのです。

まず、稽古回数です。稽古をするためには定期的に会場を確保する事が必要ですが、順心会では週に5回、5箇所稽古できます。東京や山梨の教室では週に1~2回程度で、時には会場が使用できないこともあるそうです。

次に稽古人数。順心会では少ないクラスもありますが、大体10人以上で稽古をします。多いクラスは20人位いますが、東京や山梨の教室では2~3人の所もあります。稽古に必要な事は、指導者の説明をよく観て、聴いて、真似をすることです。その時に色々な人と稽古することによって、色々な角度から稽古が出来、技量が深まります。また、稽古に来る人たちからエネルギーを貰います。お互い意識し合い、切磋琢磨することが上達には欠かせません。

更に日曜セミナーでは20人以上が一箇所に集まって、しかも4時間という長い時間稽古します。

このように恵まれた環境を今までは意識した事がなかったのだと思います。

## 【出 会 い】

順心会合氣道は2000年1月に発足し、その年の11月3日に『第一回発表会』を開催しました。そして、今年第十二回発表会を開催する事ができました。この間、私も含めて会員の皆さんは多くの人と出会い、色々な事を学んだのではないかと思います。

特に昨年十周年を迎え、『国際合氣道友好セミナー2010』を松阪市武道館で開催しました。世界6カ国から40名、国内は関東・関西から40名が参加し、順心会で合氣道をしていなければ出会うはずの無い多くの人と出会い、今年5月には9名でオーストラリアにその人たちを訪ねました。出会いの大切さを実感した行事でした。

私が合氣道を始めたのは34年前の大学生時代で、最初の1年半は大阪にある合氣会という合氣道開祖の会で稽古をしていましたが、夏休み、春休みとも2ヶ月間は実家の商売を手伝うため帰省しなければなりませんでした。その間稽古が出来ず、稽古に復帰するとそれまで習った技をすっかり忘れていた事に苛立ちを覚えました。しかし、大学2年生の夏休みに転機が訪れました。母が自転車で病院に行く途中、「合氣道会員募集」の貼り紙を見て私に教えてくれたのが、氣の研究会という藤平光一先生の会でした。毎週日曜日に関西地区本部から指導員が教えに来ていました。夏休み中そこで稽古をさせてもらい、先生に大学の授業が9月から始まるので稽古を休む事を伝え、大阪にある関西地区本部で、稽古を続ける事を勧められました。それが、現在の順心会の原点です。大学4年生の6月には東京本部の内弟子修行終えて、お礼奉公で関西地区本部に指導に来られた嶋谷先生に出会い、合氣道に見る見るうちに引き込まれて行きました。そして、朝稽古に始まり、婦人クラス、初心者クラス、上級者クラスなど時間の都合がつく限り嶋谷先生

の稽古に参加するようになりました。ついに、卒業後、松阪で合氣道の教室を始めることになりました。

指導員になってからは、藤平光一先生に直接ご指導していただく機会に恵まれ、仕事を辞めて本部の内弟子になりたいと思に至りましたが、経済的に許されない事情があったので断念しました。そして約20年間藤平先生の下で修行を続け、12年前に独立したのです。独立する少し前に、嶋谷先生を通して、現在私たちが教えを請う大島先生に出会い、現在に至っています。

もし、大学時代に実家の商売を手伝う必要がなければ、氣の研究会で稽古をすることはなかったでしょう。そして、ここまで合氣道に思い入れを持つ事はなかったと思います。と言う事は順心会も存在せず、皆さんと出会う事もなかったと思います。そう考えると、出会いは人生を決める大きな要素の一つだと思います。これからも、皆さんと出会えた「縁(えにし)」を大切にしていきたいと思います。

最後に、興味深い出会いをご紹介します。昨年の『国際合氣道友好セミナー2010』に講師として大島先生をお招きした時、先生がセミナー前日に飯南町のお寺を訪れ、ある庭師の青年に出会いました。先生の勧めで、その青年はセミナーに参加しましたが、仕事が忙しく2~3回稽古に来ただけでした。その後偶然訪れたレストランでオーナーの方とお話をする事があり、私が合氣道を教えている事をお話しすると、そのレストランが庭の手入れを依頼している庭師が『国際合氣道友好セミナー2010』に参加した事を教えてくれました。また、その方も合氣道の源流である大東流合氣武道を指導されている事を知り、それがご縁で今年の発表会に参加して頂いたのです。

これからも多くの人のご縁を大切に生きていきたいと思っています。